



国際女性デー ～ 「女性の休日」を守る取組～



3月8日は「国際女性デー」と言い、女性の権利を守り、ジェンダー平等について考える、国連が定めた記念日です。当日は日本に留まらず、世界中で様々なイベントが開催されます。

その歴史は古く、20世紀初頭に群発した女性たちの権利向上を訴える抗議活動に端を発し、国際婦人年である1975年3月8日に国連で提唱され、1977年の国連総会で記念日として採択されました。まさに、長年世界中で声を上げ続けてきた女性たちの思いの象徴と言えるのが、この記念日なのです。

そんな歴史の一部として、1975年にアイスランドで起こった「女性の休日」と呼ばれるストライキ運動をご紹介します。これは、女性たちが一斉に仕事や家事を「休む」ことで、社会における女性の存在意義を可視化した運動です。驚くべきはその参加率で、なんと当時のアイスランド中の全女性の9割が仕事や家事をボイコットしたそうです！俗説ですが、その日は料理をしてくれる人がおらず、困った男性たちによって調理不要で食べられるソーセージが飛ぶように売れたのだとか。

今でこそ「ジェンダー・ギャップ指数」が16年連続世界1位を記録し、世界一ジェンダー平等の進んだ国、と言われるアイスランドですが、その当時は男女の賃金格差や、女性の政治参加率といった問題も根強かったようです。しかし、運動から5年後の1980年には初の女性大統領も就任し、以降今日に至るまで、女性の権利向上のため様々な取組が進められてきました。なんとこの「女性の休日」は、昨年2025年10月にも行われたそうです。50年経ち、また世界的にも高い評価を受けてもなお活動的であり続ける。現状に満足せず、常により良い在り方を目指すバイタリティが、今日の成功につながっているのかもしれないね。

日本のジェンダー・ギャップ指数は118位（148カ国中）と決して高いとは言えませんが、奇しくも昨年10月、檀原市出身の高市早苗氏が日本初となる女性の内閣総理大臣となりました。また檀原市では昨年10月に「日本女性会議2025檀原」を開催し、全国から訪れた参加者、様々な有識者と見識を深めました。ジェンダーギャップについて知り、それを変えるための取組を檀原市から全国に広げていくことが、これからの檀原市の目標です。

そして現在、国際女性デーにちなみ、市役所分庁舎では3月13日まで、パネル展と国際女性デーのシンボルであるミモザの色のライトアップを行っています。興味がありましたら、是非見に行ってみてください。

最後に、私はこのコラムを書くにあたり色々調べる中で、「女性の休日」という表現が気に入りました。なぜなら「休日」とは「なにもしない日」のことではなく、社会からやること（役割）を強制されず、何をするのか自由に選べる日のことだと思うからです。すべての人がジェンダー（社会的性別）に縛られず、自分の行動を自由に選択できる日が来るよう、私たちが身近なところからできることを考えてみてはどうでしょうか。

